

## 第 4 回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について

- 1 日 時 令和 8 年 2 月 2 日（月） 午後 2 時から午後 4 時まで
- 2 場 所 徳島県庁 10 階 大会議室（徳島市万代町 1 丁目 1 番地）
- 3 出席者
  - (1) 委員 16 名中 15 名出席（欠席 1 名）
  - (2) 県 教育次長、教育創生課長 ほか
- 4 議 題
  - (1) 1 次取りまとめ（素案）について
  - (2) 再編等基準について
  - (3) 地域の拠点校設置について
- 5 意見交換における主な発言概要
  - (1) 1 次取りまとめ（素案）について
    - 教育内容の充実については、国の動向や社会情勢の変化に合わせ、その都度、柔軟に対応や見直しができる旨の文言を加えるべきと考える。
    - 多様な主体との連携・協働などの記載内容において、「地域」と「市町村」の表記について整合性を図ってはどうか。
    - 「各校での学びがどのような将来に繋がるのか」を生徒や保護者がイメージできるような情報発信が必要である。また、Web 出願については、円滑な導入に向けて分かりやすい周知・広報に努めていただきたい。
    - 再編と配置については、「一定の学校規模を維持する」ことを目的にせず、生徒一人一人の資質・能力を最大限に伸ばすために学校規模の多様性を確保するといった表現にすべきと考える。
    - 本県の将来的な産業・就業構造の変化やエッセンシャルワーカー等の不足を見据え、普通科と専門学科のバランスも考慮に入れた定員設定を含め、戦略的な適正配置と高校教育の在り方を検討する必要がある。
    - 次回取りまとめに向け、より具体的な方向性を明確化できるよう検討する必要がある。
  - (2) 再編等基準について
    - 魅力化推進校（仮称）の基準については、生徒数のみで判断せず、高校魅力化の成果が出るまでの時間軸も考慮し、柔軟な対応を検討する必要がある。
    - 魅力化推進校（仮称）については、市町村が支援を行う場合、県側も魅力化するために相応の支援を行うという「共助」の姿勢を明確にすべきと考える。
    - 「地域が高校を支援する」という捉え方ではなく、市町村が高校をまちづくりの核としてどのように位置付け、いかなる役割を期待するかという視点が必要である。
    - 再編等基準について、その目的や目標期間を明確に設定して議論すべきと考える。
  - (3) 地域の拠点校設置について
    - ※事務局で説明資料等を検討の上、次回以降、議論することとなった。
  - (4) その他
    - オンラインを活用した柔軟な教育環境の整備や、大規模災害時に教育機能をどう維持するのかという広域的なリスク管理や相互補完の視点についても検討が必要である。
    - 国の補正予算による「高等学校教育改革促進基金」を、本県公立高校のさらなる特色化・魅力化に向けて最大限に活用できるよう、積極的に取り組んでいただきたい。